

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する塩酸ファスジル動注療法前後の
血行動態変化』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 脳神経外科 職位・氏名 助教・藤田聡

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科では、くも膜下出血後の脳血管攣縮^{*1} に対する塩酸ファスジル動注療法^{*2} 前後の脳血行動態変化^{*3} を検討することを目的として本研究を計画しました。この研究で得られる成果は、くも膜下出血後の脳血管攣縮に対するより良い治療方法のご提案につながります。

^{*1} 脳血管攣縮(のうけっかんれんしゆく)とは、脳内の血管が縮んで血液の流れが悪くなる現象で、くも膜下出血の患者さんの30～70%に生じます。

^{*2} 塩酸ファスジルを直接動脈内に点滴により注入することにより、血液の流れを改善する治療法のことです。

^{*3} 脳血行動態変化(のうけっこうどうたいへんか)とは、脳内の血液の流れる状態の変化という意味です。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大橋病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者：2018年8月1日～2022年12月31日までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科において、破裂脳動脈瘤に対して根治術(クリッピング術もしくはコイル塞栓術)を施行し、経過中に塩酸ファスジル動注療法^{*2}を行った方。(18症例を予定)

方法：診療録(カルテ)から抽出したデータおよび血管撮影画像を解析し、塩酸ファスジル動注療法前後の血行状態の変化を検討します。

【研究に用いられる試料・情報】

情報：年齢、性別、くも膜下出血グレード、動脈瘤位置、治療方法、塩酸ファスジル投与前後の脳血行動態変化³⁾

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表医師：藤田 聡 役職：助教

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、代諾者の方も含め下記までご連絡下さい。その場合でも、患者さんに不利益になることはありません。代諾者の方の範囲は配偶者、親族、後見人、その他、原則として本人の意思を代弁できる者としてします。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科

職位・氏名： 助教・藤田 聡

電話： 03-3468-1251 内線： 7436